



政務活動報告書

令和6年3月29日

〔会派名： 自由クラブ 〕

代表者氏名	山下 登 	記録者氏名	柏 元三 
活動者氏名	柏 元三 山下 登 木平 秀喜		
活動日	令和5年10月23日（月）～令和5年10月25日（水）		
活動先	市立千歳市民病院 市立三沢病院 市立横手病院 東成瀬小学校		
活動目的	公立病院経営状況調査 学力日本一の学校教育視察		

病院・学校視察報告

※ 千歳市立千歳市民病院 病床数190床（令和5年10月23日）

令和元年度医療収益、入院30,6億円 外来16,2億円

経営企画課長、同係長2名、医事課長、総務課長

1、2000年、病院建て替え時に就任した事務局長が病院職員の意識改革に取り組んだ。当時の医師の仕事量を見て「意識改革」が必要と強く感じたが、医師と役人の現場意識に差があり、おまけに医師は役人を嫌っていた。「意識改革が必要だ」と一方的に訴えても、反発を受けるのは当然の状況であった。

そのため、医療スタッフに「この病院の役人は何か違う」と思わせるために、医療スタッフが困った時に、頼られる事務部門を目標に事務部門から改革を行った。

医療スタッフの困りごとの多くは「お金に関すること」「人間関係」であり、事務部門が勝負できる土俵であると思い、医療スタッフが納得できるスピード感を重視して取り組んだ。

上記は、2016年に記された事務局長の談話であるが、どのような形で成果が表れているのか、現状を知りたくて訪問した。

千歳市民病院は公営企業法一部適用病院で「市長が経営者」になっている。よって事務局が経営を担っている。15年以上前の事務局長の改革を知る人はいなかったが、事務局が病院を仕切っている現状を見ると、当時の事務局長が目指した病院改革は見事に結実していると思えた。

医師の確保に頭を痛めているのは同じであるが、「大学医局との交流・医師派遣要請は事務局が担当している」と経営企画課長が胸を張っていたのも頷ける。北海道大学医学部、札幌医科大学、北海道がんセンター、北海道医療センターと提携している。

2、病床数190、医師数34名、医療収益（入院+外来）46億8千万円



特徴は外来患者数（677人/日）である。名張市立病院よりも319人多い2倍近い人数である。

677人の外来患者を34人の医師で診療できる秘訣は、嘱託医4名と非常勤医10名であるが、午前中の受付患者の診療が午後5時に及ぶことも少なくないという。

- 3、産婦人科に注力しており、助産婦外来の設置が分娩の獲得に貢献している。

分娩数416件（帝王切開106）、手術件数298で赤字額は2千万円以下である。

- 4、地域包括ケア病床16床の稼働はポストアキュートだけである。

市民のためには在宅医療やサブアキュート、レスパイトの必要性は承知しているが、医師の手が回らない。

※、三沢市立三沢病院 病床数220床（令和5年10月24日）

令和元年度医療収益 入院26.5億円 外来17.8億円

事務局長、管理課長、管理課長補佐

弘前大学医学部と連携

- 1、平成25年に公営企業法全部適用に移行して、弘前大学医学部教授を事業管理者に招聘した。現事業管理者も大学教授であった。

事業管理者と院長の二頭運営の長所は、重要な案件は両者で熟議することにより、確実性を高めることが出来る。最も重要な医師確保を事業管理者が担うことにより、院長が医療管理に専任できる。事業管理者の出身が大学医学部教授で、院長は大学の臨床教授であることが、医師派遣要請にとって大いに役立っている。

- 2、医師から選ばれる病院になるように、「先進的な院内保育所の設置」や「海外研修を含め様々な研修への医師派遣」「学術論文発表」「院内医誌発行」「最新医療機器導入」などを実施している。

- 3、最新医療機器は、中核病院の責任と役割を果たすため、「PET-CT」や「手術支援ロボット・ダヴィンチ」を導入。

ダヴィンチを使用するためには専門医師2名が規定されており、導入に際しては弘前大学医学部に協力を要請して、自院稼働までに2年要した。

現在のダヴィンチの稼働実績は年間55件程度と少ないため、もっと活用できるように努力している。

- 4、三沢病院は「外来診療のDPC係数が1万7千500円で非常に高い。

当院はPET-CT設置が示すように、「がん治療」に注力しており、抗がん剤外来がDPCを引き上げている。材料比率28.4%が高い大きな理由になっている。（名張市立病院の材料比率は20%前後）

高エネルギー放射線治療器「リニアック」、放射線ヨード内療法、SPECT用ガンマカメラ、PET用ガンマカメラ等の医療機器設置。

5、地域包括ケア病床

病床数は51床であるが、稼働率は46%と低い状態。

ほとんどがポストアキュートで在り、市民への周知が遅れている。

※ 横手市立横手病院 病床数229床 (令和5年10月25日)

令和元年度医療収益 入院30.2億円 外来15.2億円

事業管理者兼院長、事務局長、総務課長、医事課長

1、病院設立(明治22年)130年余で自治体病院として古い歴史がある。

公営企業法全部適用(昭和36年)後昭和41年から事業管理者と院長の兼任制が定着している。現事業管理者は就任を打診されてから、猛烈に事業管理者(病院経営者)の勉強をしたと言う。

また、事業管理者は横手市立大森病院(150床)の事業管理者も兼任している。

2、がん診療の充実と緩和ケアに注力している。

がんの早期発見から内視鏡手術、化学療法、早期からの緩和ケアをおこなっている。各診療科にがん診療の経験豊富な専門医師を配置している。

特に消化器がんについては、病院改修工事着工した平成16年、当時の事業管理者が消化器治療を特化するとして、病院の中核に消化器治療を設定した。消化器がん診療内容は高く評価されており、遠方の医療機関からも患者の紹介が少くない。

3、外来患者が異常に多い。

一日の外来患者が620人以上と多く、名張市立病院の2倍近い、しかも医師数は26人であり、十分な診療が出来るのか疑問に感じた。

外来患者が多い理由は、229床病院であるが「紹介状不要」、「法廷療養費要」で広く患者を受け入れていること。まちの診療所から不満が出ないのは、病院の歴史が130年以上も続いており、全ての診療所が後から開設されているため、全く問題が生じていない。

医師数は少ないが、医療スタッフが良く働き、必要に応じて秋田大学医学部から応援を受けて対応している。

院長は当日「訪問診療の予約」が有り、会議の途中(14時30分頃)に退席され、先頭に立って大変忙しく働いている様子が伺えた。

項 目	名張市立病院	上野市民病院	千歳市民病院	三沢市立病院	市立横手病院	坂出市立病院	芦屋市立病院
病床数	200	281	190	220	229	194	199
地域包括病床	41		16	51	45		15
医師数	34	18	34	24	26	32	34
看護師数	156	136	177	177	172	158	142
事務職員	19	13	33	19	17	14	17
全職員	273	237	286	261	263	248	232
入院患者／日	154	196	136	167	168	153	174
DPC	51,587	38,175	61,506	43,402	49,101	56,035	49,430
外来患者／日	316	289	635	419	622	509	339
DPC	11,973	14,753	10,647	17,503	10,167	14,333	13,437
医業収益	4,274,937	4,222,385	5,454,518	4,761,670	4,896,783	5,518,305	4,917,039
診療収益	3,814,141	3,763,725	4,684,621	4,422,498	4,542,945	5,243,108	4,242,432
入院収入	2,906,136	2,741,960	3,061,877	2,648,108	3,019,090	3,128,968	3,140,727
外来収入	908,005		1,622,744	1,774,390	1,523,855	2,114,138	1,101,755
医業費用	4,614,711	4,009,266	5,844,346	5,692,701	5,088,969	5,929,253	5,104,380
医業収益／医業費用	0.926	0.939	0.933	0.836	0.962	0.931	0.969
職員給与と費	2,803,852	2,097,299	2,813,931	1,904,350	2,758,040	2,600,441	2,408,822
給与と費／診療収益	0.735	0.557	0.6	0.43	0.607	0.496	0.568
材料費	754,551	746,612	1,126,214	1,351,503	1,090,589	1,723,574	875,053
材料費／診療収益	0.198	0.198	0.24	0.306	0.24	0.329	0.206
経費	510,490	929,195	1,478,757	1,835,928	896,682	814,745	1,348,148
経費／診療収入	0.134	0.247	0.316	0.415	0.197	0.155	0.318
医業収益－医業費用	-339,774	213,119	-389,828	-931,031	-192,186	-410,948	-187,341

東成瀬小学校

何度訪れても理解しきれない「全ての教育方法」を実践していると思える学校である。全国には優れた学校がいくつもあるが、これ程まで完成度の高い教育を実践している学校を見たことも聞いたこともない。

東成瀬小学校では多くの教育手法が日常的に「当たり前」のこととして定着している。

- ① 子ども同士で教え合う。
- ② 村の人が非常勤職員になって「わからない子」にマンツーマンで教える。
- ③ 終業5分前から「振り返り」を必ず行う。
- ④ 読書に注力している。図書室の他、教室にも廊下にも本が溢れている。
子ども一人当たりの図書予算は年間6000円（名張市の6倍以上）。
- ⑤ 書き終えたノートは教室や廊下に一年間展示して、友だちが参考にして
いる。（とにかく字がきれい）
- ⑥ 給食費無償、通学バス無料、村営塾無料
- ⑦ 家庭学習に種々の工夫が見られる。
自学学習ノート（項目毎の配置が素晴らしい。字がきれいで丁寧）
ノートには先生のコメントが書き足される
ぐるぐるノート（グループ内でお互いのノートを回し読む）
家庭学習時間は「学年×10+10分」が基本
- ⑧ ハンドサイン授業（後述）
- ⑨ 授業の基本
問題→予想→課題→考え（自分&みんな）→まとめ→練習→振り返り
- ⑩ チャンピオンシビック
一学年上の算数、国語、理科の応用問題を掲示、正解者を張り出す

令和元年に訪問した時に比べて、中身の濃い「探求型学習」が新しく実践されていた。

自ら学び、考え、より高い自分を求めて努力する子どもの育成に重点を置く学習法であるが、文部科学省が「主体的、対話的で深い学び」として提唱する「アクティブラーニング」とよく似ている。一般的に、アクティブラーニングは大人が良く行うワークショップのように、子ども主体で行われているが、探求型学習は教師主導で「子どもの学び合い」をより深く引き出す学習であり、教師の実力が問われる。

ハンドサインによる学習



子どもたち全員が元気よく手を挙げる。「わからない」を堂々と言える人間は、必ずわかるようになる。わからないことをわかっているふりをしたり、誤魔化したりする人間を育てない教育。自分の意見を主張できる力、他人の意見を聴き取る力が自然に学べる等、ハンドサインによる学習で「人間力」が育つ。名張市の小学校に導入したい。